

# 「ガザの悲惨な状況 さらに悪化」

国連総会（加盟193カ国）は17日、非公式会合を開き、イスラエル軍による侵攻が続くパレスチナ自治区ガザ地区の危機的な人道状況を議論した。国連機関の代表が人道支援の緊急性を訴えた。

オンラインで参加した国連のグリフィス事務次長（人道問題担当）によると、ガザ北部には入院患者を収容できる24の病院があつたが、現在機能しているのは一つだけだという。「悲惨な状況はさらに悪化する可能性がある」と警告した。

国連のグリフィス事務次長

## 国連機関代表ら、人道支援の緊急性訴え

政治交渉に依存している」と厳しい言葉を並べた。必要な人に支援が届けられない歯がゆさから「私たちの仕事は『ミッションインポッシブル』になった」と嘆いた。

途上国の貧困撲滅などに取り組む国連開発計画（UNDP）のショウタイナー総裁は、パレスチナの将来への懸念を示した。この戦争により、控えめな予測でもパレスチナの発展は11年後退し、ガザに限れば17年も後退すると説明。また戦闘がまる2カ月続いた場合、さらに50万人が貧困に陥る可能性を指摘した。

世界保健機関（WHO）のテドロス事務局長は国連の各加盟国との働きかけが必要と訴えた。そのうえで「もし、あなた方がこの出血止められなければ、私たちとは『国連は何のためにあるのか』と問わなければならぬ」と述べた。